

## 「いのちの森づくり」に想うこと ～ 福祉と環境のコラボレーション ～

川下 都志子（株式会社 研進／湘南国際村めぐりの森植樹実行委員長）

\* 本稿は、NPO 法人市民シンクタンクひと・まち社の機関誌「ひと・まち」NO. 49（2015年3月5日発行）に掲載された随想記事を、一部編集して収録したものです。



### ■ 共に過ごすことによる「気付き」

私は、東日本大震災の直後、2011年3月22日に（株）研進（社会福祉法人進和学園の営業窓口会社）に入社しました。当時、施設内は震災の影響を如実に受け、利用者（施設を利用される障害のある方々）は奇声をあげる人、うろうろと落ち着かず徘徊する人など、東北の方々の苦難を共に感じて苦しんでいる様に思えました。その後、「福祉的就労」について勉強するため、紅茶の封入梱包作業などを行い、利用者の方と共に過ごしました。2ヶ月目には、東北への多額の義援金を東ティモールが提供したことを耳にし、東ティモール産のコーヒーの流通の促進（フェアトレード）と福祉施設メンバーの工賃を得ること、売上げの一部を東北沿岸の防潮林のための苗木に充当する寄附金機能を付けるなど、東北（被災地）／東ティモール（開発途上国）／福祉（障害者）の三方に喜んでもらえるコーヒー商品「カフェ・ブーケ」を企画しました。「カフェ・ブーケ」が具現化に向け動き出した時には、「いいじゃないですか」「凄いですね」と、一番温かく応援してくれたのは利用者の方々でした。そして、新企画の準備に慌ただしくなる私を気遣ってくれたのも利用者の方々でした。皆さんから、私の好きな景色を撮影した写真のサプライズ・プレゼントがあり、その心遣いに感動し言葉を一瞬失いました。時間もお金もかかり、負担をかけてしまったことに「ごめんね。ありがとう」と言うのと、「私だって何かしたいんですよ。東北には行けないけど、支援したいんです」との言葉に、いつの間にか自分がハンデを持つ方から支援を受けるとは夢にも思わず、本心では一人の人として対等に捉えていなかった心の奥底の歪みに気付かされ、自らを恥じ入りました。



森づくり寄附金付  
カフェ・ブーケ

利用者の方々は、素直に仕事が出来ることを喜び、社会の役に立っていることに生き甲斐、遣り甲斐を見出し、日々の支えとされています。障害者だろうと健常者だろうと仕事をすること、社会の役に立つことがとても重要であり、大きな意味を有することを勉強させて頂きました。

### ■ 「福祉的就労」と進和学園の取り組み

（株）研進の事務所がある施設は、社会福祉法人進和学園の就労系事業の拠点で「しんわろネッサンス」といいます。主に知的障害のある方を中心に、A型（雇用型）20名、B型（非雇用型）80名、就労移行支援20名の合計120名の方が、毎日通い仕事に従事しています。

支援員である職員の方々は、利用者の健康管理から、家庭との連絡や通所時の安全確保、仕事上の段取りなど、広範囲のサポートを要求され、その仕事量や勤務時間は大変厳しいものがあります。それでも10年20年と長期の勤続者が多く、身びいきを抜きにしても奉仕の精神と忍耐力を兼ね備えた方々が、開設57年の進和学園の礎となられているのではと思います。



ホンダ元副社長の西田通弘様(左から3人目)をお迎えして / 右端が川下さん  
～2012年12月24日クリスマス会  
「しんわろネッサンス」にて～

「しんわろネッサンス」は、1970年代から本田技研工業（株）様より、自動車部品の組立を受注しており、通所される約120名の内、実に75名の方がホンダさんの仕事に従事しています。その質の高さが評価され、ISO9001認証を、知的障害部門の福祉工場では全国で初めて取得した非常に優秀な施設です。福祉施設における全国の平均月額工賃は、約14,000円と低水準です。一方、進和学園は、ホンダ車部品組立の受注により、A型：月平均約148,000円、B型：月平均約45,000円と高い工賃レベルを保つことが出来ています。加えて、「いのちの森づくり」プロジェクトのみで計算しても3～4万円の月額工賃をキープしており、福祉施設の在り方を導くリーダー的役割を担っていました。

しかしながら、進和学園の工賃水準を以てしても健常者との溝は大きく、加えて、2008年のリーマンショックや2011年の東日本大震災、タイ大洪水と自動車業界にも苦難が連続し、現地生産にシフトされたこともあり、自動車部品の組立の発注は、全盛期の三分の1と落ち込みました。必然的に、工賃の安定化のため、事業の多角化を余儀なくされます。

### ■ 福祉と環境活動の交流・連携

2006年10月に発足した「いのちの森づくり」プロジェクトも、事業の多角化の一環と位置付けられました。この取り組みは、横浜国大名誉教授 宮脇昭先生の提唱する森林再生の理念が進和学園の理念と酷似することから、2006年春に新設した「しんわろネッサンス」の植栽を宮脇先生にご指導頂いたことが契機となっています。「仲の良い者だけを集めず、お互いに少し我慢し合うことで成長する」という「森づくり」を通じたメッセージが、障害者が社会参加する際の姿と重なり、人間社会も同じではないかと理事長がいたく感動したのです。

現在、このプロジェクトにより、福祉施設連携で栽培する苗木の総数は約10万本、樹種は約80種類となり、出荷本数は累計16万本を超えました。出荷先は、東北から南は関西まで広域に亘り、今（2015年3月）も福島県南相馬市植樹祭のための出荷準備をしています。

私は、「いのちの森づくり」の担当となり、森づくりを通じた社会との交流が、相互にメンタルケア、教育、自然環境の学習へと繋がる場として、素晴らしく価値が高いことに気付きました。その機会は、森づくりのプロセスの中に多くあり、①どんぐり拾い ②どんぐりから発芽した苗をポットへ移すポット苗づくり ③2～3年生の苗木を植える植樹 ④植樹後に森を育む育樹（主に除草作業） ⑤森の講座（自然環境学習・体験実習）などです。特に、植樹祭や育樹作業では、障害者も健常者も老若男女が混ざって、最高の交流の場となります。嬉しい思い出は記憶となり企業からも市民団体からも又機会を持ちたいとお声がかかります。自分の中でも、もしかすると「森づくり」が福祉的就労環境を改善する起爆剤になるかもしれないと可能性を確信しました。

進和学園のみならず、福祉施設同志の横の交流を深め、育苗・植樹・育樹と植樹地に近い施設からの協力を仰ぐことで自然に連携の輪が広がりました。現在、神奈川県で6施設、県外を合わせると10施設以上がこの取り組みに参加しています。こうした福祉施設間連携による森づくりチームを「どんぐりブラザーズ」と命名しました。昨年（2014年）11月23日には、テレビ神奈川様との共催で「どんぐりブラザーズと植樹大作戦～あすの地球と子どもたち～」1000本植樹祭（湘南国際村）を開催し、福祉施設が推進する森づくり事業を紹介するため、チームの皆さんにステージに上がって頂きました。当日は、100名の募集のつもりが250名の方にご来場頂き、企業・NPO・行政・学校と多方面から高くご評価頂き、絶好の交流の場となりました。

### ■ 森づくりは人づくり

公共の場に森づくりをしなくても予算がないという場合も、「進和学園いのちの森づくり友の会」の会員からの善意の寄附金を活用し、植樹祭が開催出来るようにサポートも可能となっています。お陰様で、学校や国道沿い・公園などの公共スペースの植樹を教育機関・行政・市民団体からお申し出頂き、自然環境保全・改善活動と同時に福祉施設利用者への工賃還元にも役立っています。こうして、外部のご評価も得つつ「森づくり」が地域・社会・教育・福祉・環境・労働と広がってきたのも「自分さえ良ければいい」という排他的な考え方ではなく、関わる方、皆さんに喜んで頂きたいと施設側もスタッフも心を砕いてきた結果だと思っています。

更に、私達は、森の恩恵により呼吸し、自然の浄化作用により安全な水を手に入れ、森が創った土で耕した食料を頂く、日本の昔からの教えである「身土不二」を、土に触れる日々の中で学べます。今、日本が元気を失い、社会が病んでいると感じるのも、人が自然の一部でありながら不自然なことを強いられ、不自然な環境に身を置き、土から離れてしまった現状への警告のような気がします。自然の大切さ、自然と共に生きることを知り毎日に感謝することが、福祉や一般社会をも包含して、照葉樹林文化に象徴される日本の再生の鍵になる気がしてならないのです。そして、「森づくり」は、健常者・障害者の垣根を越えた「人づくり」の場であることを実感しています。地域の中で環境活動や福祉活動が共に連携して、豊かに育まれることを期待したいと思います。



植樹後9年を経た「しんわろネッサンス」の森  
自然の森は色々な種類が混ざり合う！（2015.4.21）



横浜市立汲沢中学校「どんぐりからの苗木づくり」  
授業 ～1年生によるポット苗づくり体験実習～  
(2014.12.11)



大きな成果を挙げた「どんぐりブラザーズと植樹大作戦」  
(2014.11.23 湘南国際村めぐりの森)